談話

五週六週とりたてゝ云ふこと無し。

但しおはなしの始の時に、今日の月日、曜日、天候等のことを繰り返しつゝ把握を強めてゆく。

そろ〳〵自分の家族の名、關係、住所等一人づゝ自分で云はれるように。十二月頃迄には、組のみんなが云ひ得るよう、今から折を見て知らせたり、云はせたりして見る。

第七週

日本海の海戰

二三日前から、戰況の繪なり、無ければ海上に浮ぶ軍艦の繪なりを掲げておく。戰況の委しい事は話すにはむづかしいが、この戰で、日本が勝つたといふこと、東郷元帥の偉力に依ること等は話しておく。

第八週

もみの木

世界的偉大な童話作家アンデルセンの作、ずばぬけた想像力で、あの無表情に樹つてゐるもみの木を、こんなにも生かしてゐる。うれしい事だ。もみの木の獨り言も面白いが、木といふものがこんな事を思つてゐる、といふ事から、自分達が日々親しんでゐる、さくら、柳、藤なども何か思つてはゐまいか、思はせて見るのもよい氣がする。

童話が多く動物を材料としてゐるのに、これは珍らしく木を用ひたもの、是非きかせておきたい話である。

浦島太郎(人形芝居)

見てゐても勿論面白いらしいが、今迄の經驗によると、もう見てゐるだけでは慊らず、自分達が演じて見たくなるらしい。それにはよく浦島さんの台詞を覺え込んで、友達に見せてゐることを屢〻見受けるので、これは幼兒演出に導くよい材料になる。